

大学院スタンダード

知の拠点 TSUKUBA で 新たな知と個性輝く人材を共創する

建学の理念を踏まえて、大学院における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにし、学位の質の保証と持続的向上を目指す本学の教育宣言として広く社会に公表します。

建学の理念

筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。

従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることを基本的性格とする。

そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する。更に、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。

IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学は「新構想大学」と呼ばれ、「開かれた大学」を開学の理念として生まれました。旧来の大学のありかたを反省し、「学際」そして「国際」化への「改革」を掲げた、原点もアイデンティティもここに 있습니다。その後の時代の流れを見れば、この理念の予見したものが、いかに先進的であったかがわかります。学際化、リベラルアーツ教育、産業と学問の連携、国際交流、留学生の受け入れなど、ことごとく時代の求めるところとなってきました。私たちは、この理念の先進性、先見性を誇りに思うべきです。

あえていうならば、私たちは「伝統校」「名門校」の称号よりも、新しい、開かれた「先端校」「先進校」の理念を選んだのです。東京高等師範学校、東京教育大学という伝統の誇りはいまでも私たちの内にありますが、東京を離れ筑波に地を得たとき、誓ったものは新しい「改革」と「挑戦」の理念でした。「筑波」とは地名ではなく、その理念の代名詞だと思ふべきです。改革者は改革をやめず、開拓者は開拓をやめません。つねに、開かれてあること。みずからの改革をつづけ、時代の矢印となること。筑波大学が目指すナンバーワン、オンリーワンとは、最も「未来志向」の大学であること、ではないでしょうか。世界と未来に向けたTSUKUBA CITYの中核として。医学・体育・芸術もあり、肉体性と感性の領域まで含む人間理解と人材育成を目指す、真の意味での総合大学=UNIVERSITYとして。

筑波大学とは「未来へのフロントランナー」である、と、あらためて確認して、この新しい伝統のバトンを、絶えることなくリレーしていきたいと思ふます。

筑波スタンダードとは何か

筑波スタンダードは本学による教育宣言です。学士課程のスタンダード(平成20年3月公表)と大学院のスタンダード(平成23年6月公表)の2種類があり、各課程で筑波大学が何を目指し、その目標をどうやって達成するかを明らかにし、本学が保証する教育の質を広く社会に公表するものです。質を維持するだけでなく、それをたえず改善し、持続的に向上させるツールとして、筑波スタンダードは学内でも重要な役割を果たしています。

「学位プログラム」の意義

学位プログラムとは、学士・修士・博士といった学位の水準と学問分野に応じて達成すべき能力を明示し、その能力を学生が修得できるように体系的に設計された教育プログラムのことです。学部等の教育組織に教員が固定される従来型のシステムでは、個々の教員が提供する授業の総和としてプログラムが組まれるため、社会の要請や学生のニーズよりも教員の事情が優先されがちでした。それに対し、学位を国際的互換性のある能力の証明と位置づけた上で、学位に相応しいプログラムにするために学内外の組織の枠を越えて教員が集まり、学生視点での教育内容を提供するのが学位プログラムです。学位プログラムを中心とした教育システムとすることにより、学生にとっても社会にとっても、大学の教育目的、教育内容、教育成果が見えやすくなります。

筑波スタンダードと学位プログラム

本学は開学以来、従来の学部とは異なる「学群・学類」を置き、学生の教育のための組織と教員の研究のための組織を分離した体制の下で学士課程の教育を実施してきました。この教育システムにより、一つの組織内で閉じることなく、教育の必要性に応じて全学から担当教員を配置することを可能としています。これは、学位プログラムの考え方を体現した教育システムと言えます。2011年度には、新たな教員組織(系)を設置する組織改革を行い、さらに2020年度には大学院を改組再編するとともに全学的な教学マネジメントの体制と仕組みを整備し、学位プログラムを中心とした教育システムへと全面移行しました。筑波スタンダードでは、すべての教育組織において、学位ごとの「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」、およびその質を保証する方策を明示しています。これらは、本学の建学の理念に基づく一貫した取組です。今後も、国際的互換性と協働性を備えた教育システムとして本学の学位プログラム制の確立及び教育の質のさらなる向上を目指し、教職員一同、より一層教育改革に邁進する所存です。

筑波大学長 永田 恭介

筑波大学大学院の教育目標

博士課程の教育目標

■ 学問を継承し躍進させる研究者及び異分野を融合し先端的な新領域を切り拓く研究者をともに育む

■ 深い専門性、卓抜した独創性と柔軟性を兼ね備え社会に貢献する高度専門職業人を育てる

■ 教育・研究・組織運営の各面で鍛え抜かれた力量を有する大学教員を養成する

修士課程の教育目標

■ グローバルな視野と専門的実務能力を併せ持ち、社会に貢献する高度専門職業人を育成する

専門職学位課程の教育目標

■ 高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を有する高度専門職業人を育成する

- 鋭敏な国際感覚を基盤としグローバルにリーダーシップを発揮し得る人材
- 豊かな教養と倫理観を併せ持ち人類社会の未来に資する知を創成できる人材
- 論理的な思考力と先進的な創造力を兼ね備え
成熟した知情意に基づいて専門的職能を切り拓く人材

知の拠点 TSUKUBA で新たな知と個性輝く人材を共創する (図1)



図1 知の拠点と人材の共創

明確な教育目標と質の高い学位プログラム

3 学術院 6 研究群による学位プログラム制

本学大学院は、2020年度に8研究科85専攻から3学術院6研究群へと改組再編し、学位プログラム制へ全面移行しました。新組織では従来の専攻の壁が取り払われ、幅広い分野の教員が協働して学位プログラムを担当します。つまり、6つの研究群がいわゆる専攻相当となり、その中では全教員が専任教員となります。これにより、研究群内では、ひとりの教員が複数の学位プログラムを担当することができ、分野を超えた担当・協働指導体制等が可能になりました(図2)。また、学術院・研究群を教員の所属組織である系とは明確に分離した組織としました。この学術院・研究群の下に開設される学位プログラムは、学位のレベル(修士・博士)とその系統(研究・専門・専門職)及び分野において、社会的要請を踏まえた人材養成目的を設定し、どのような能力を修得すべきかを明示し、それを修得するための教育課程を体系的に設計しています。

このほかに、全学的な協力の下で運営する学位プログラムの実施・運営を行うために「グローバル教育院」を置いています。

3つのポリシーの明確化とコンピテンスの設定

本学が授与するすべての学位について、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの3つのポリシーを明確化するとともに、学位授与時に学生が備えているべき知識・能力(以下「コンピテンス」という。)をディプロマ・ポリシーにおいて明示しました。これに基づいて各教育組織・学位プログラムは教育課程を編成・実施します。学位に相応しいコンピテンスを明示し、その達成度を評価することで学位の質保証が担保され、また本学の大学院教育による学修成果を社会に可視化することができます。

コンピテンスは「汎用コンピテンス」と「専門コンピテンス」に区分し、汎用コンピテンスは社会での活躍を支える汎用的知識・能力として修士課程・博士課程ごとに全学共通に定めています(表1)。専門コンピテンスは、専攻分野における高度な知識・能力として学術院・研究群・学位プログラムの各階層の人材養成目的に対応し、「研究力」「専門知識」「倫理観」の3項目を基軸として体系的に構成されています。全学・学術院・研究群の各階層における共通の基盤の上に各学位プログラムの特色や独自性に基づくコンピテンスを設定することで、学生は、深い専門性ととともに、関連する分野の基礎的素養や広い視野、俯瞰力を涵養できる仕組みとしています。

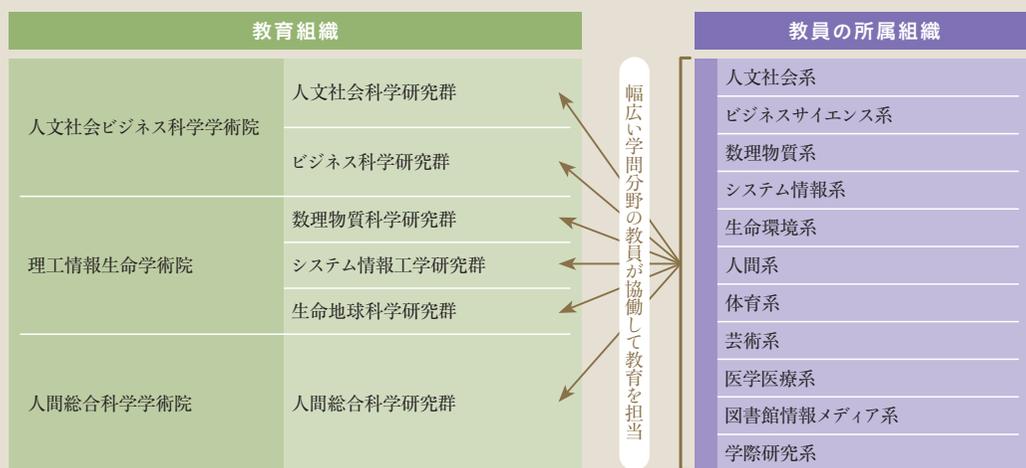


図2 幅広い分野の教員による担当・協働指導体制

■ 体系化された教育課程編成

本学は、高度な専門的知識とそれを活かす多様で学際的な知識の習得で得られる総合的な知的基盤に加え、倫理観、人間性、論理性、国際性、コミュニケーション力、豊かな心身基盤、マネジメント・企画調整力などの汎用智がバランスよく培われた高度な知的人材を育て上げるための教育を施すための教育体系を「総合智教育」と定義しています。この総合智教育の理念に基づき、各教育組織・学位プログラムはディプロマ・ポリシーにおいて明示した汎用コンピテンスと専門コンピテンスを学生がバランスよく修得できるように教育課程を体系的に編成・実施します。このため、各学位プログラムにおける専攻分野に係る科目だけでなく、全学で編成する大学院共通科目や学術院単位で編成する学術院共通専門基盤科目、研究群の共通科目を開設しています。大学院共通科目は主に汎用コンピテンスに対応する科目であり、倫理観、情報伝達力・コミュニケーション力、国際性、キャリアマネジメント力、幅広い知的基盤、豊かな心身基盤などをバランスよく涵養するための6科目群を設定しています。学術院共通専門基盤科目は学術院の専門コンピテンスに対応した科目であり、自らの専門分野に隣接する様々な専門分野

の基盤的知識を修得することができます。本学の学生は大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目及び各々の専攻分野に即した専門的科目を履修していくことによって、俯瞰的な視野で論理的に考える力と一つの分野にとどまらない広がりのある専門性を身につけることができます。

■ 社会の要請に応える研究力と現場力の養成

複雑化した課題を多く抱える今日の社会においては、深い専門知識と研究能力に裏打ちされた高度で実践的な課題発見・解決力を持った人材の輩出が強く求められています。こうした情勢を踏まえ、本学は修士又は博士にふさわしい研究能力に加えて、特に、社会における現実の具体的課題に即した「現場力」の養成を重視した学位プログラムが授与する学位を「専門学位」として位置づけました(図3)。

これは、社会の具体的課題に積極的かつ的確に対応していくために、本学が独自に設ける学位系統です。授与する学位(修士・博士)の法令上の位置づけに違いはありません。

「専門学位」を授与する学位プログラムは、現在経営学学位プログラム、サービス工学学位プログラム、山岳科学学位プログラム等の16学位プログラムです。

	汎用コンピテンス
修士課程	1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力
	2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力
	3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力
	4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力
	5. 国際性: 国際社会に貢献する意識
博士課程	1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力
	2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力
	3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力
	4. リーダーシップ力: リーダーシップを發揮して目的を達成する能力
	5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲

表1 汎用コンピテンス

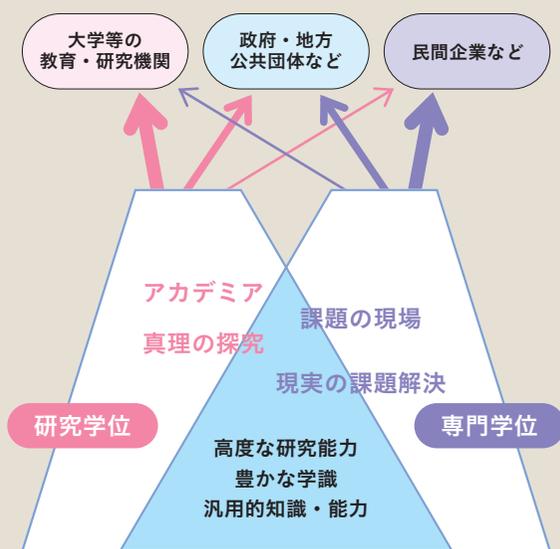


図3 専門学位と研究学位

教育目標の達成に向けた方針

方針2

グローバルリーダーとなる人材の育成

つくばからTSUKUBAへ

本学には開学当初から多くの留学生と外国人教員が集まり、国籍や言語の垣根を越えて学びあう学生と教員が「筑波大学」という組織や「つくば」という地域にとらわれない知の拠点TSUKUBAを共創してきました。また、本学は体育・芸術・医学を擁する特徴ある総合大学として、スポーツ、芸術、心身の健康も含めて全人的に留学生と外国人教員を支援することにより、誰もが安心して協働できるコミュニティーづくりを推し進めています。

つくば市と筑波研究学園都市には多くの外国人が滞在しています。その中核機関として、本学は筑波研究学園都市の国際化を推進するためのハブ機能も果たしています(表2)。

国際性の日常化

本学が21世紀において果たすべき役割のひとつが、グローバルリーダーとなる人材の育成です。これを実現するために、本学は12の国・地域に13か所の海外拠点を置き、また、300件を超える交流協定を結び(図4)、優秀な留学生の受け入れ、在学生の海外派遣、教員の学術交流にめざましい成果を上げています。

本学は、国際化拠点整備事業(グローバル30:平成21~25年度)やグローバル人材育成推進事業(GGJ:平成24~28年度)等の取組を通して、キャンパスにおける「国際性の日常化」を推進しています。スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU:平成26~令和5年度)では、国境や機関の壁を越え、世界中の資源を積極的に活用した教育研究の実施をめざし Campus-in-Campusなどを推進しています。

また、キャンパスにおける「国際性の日常化」と、「世界を学びの場」にする学生の海外派遣を推進するためのワンストップサービスを提供する学内組織として、スチューデントサポートセンター(国際交流支援室)を設置しています。

グローバルリーダーの育成

国際的なリーダーにふさわしい人材を育成するため、本学は、学びの場をキャンパスという空間に限定せず「世界を学びの場」にすることをモットーに、本学独自の支援としての奨学金や、授業、課外活動、そのほか全学的な様々な取り組みを用意しています(表3)。

つくば市には、137ヶ国から来た
9,457人(令和2年10月)の外国人が在住
大学には4,000室の宿舎があり、約2,200名の留学生のうち
約1,000名が暮らす。

表2 つくば市と筑波研究学園都市の外国人滞在状況

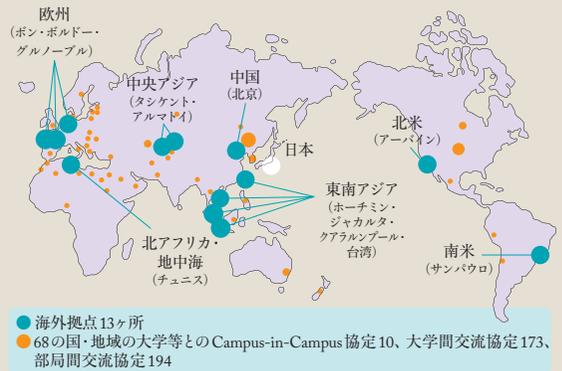


図4 海外拠点と交流協定国(R4年10月現在)

<p>経済的支援(渡航費支援・滞在費支援・参加費支援等)</p> <p>大学院共通科目:国際研究プロジェクト、国際インターンシップ</p> <p>つくばスカラシップ:留学生支援</p> <p>海外留学支援事業(はばたけ!筑大生):国際交流協定校交換留学支援、キャンパスインキャンパス(CiC)等支援、海外武者修行支援、海外学会等参加支援、語学研修・海外研修参加支援</p>
<p>授業科目・教育プログラム等</p> <p>大学院共通科目:世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる JAPICアドバンスト・ディスカッションコースなど</p> <p>ヒューマンバイオロジー学位プログラム エンパワーメント情報学プログラム ヒューマンクス学位プログラム (卓越大学院プログラム採択)</p> <p>日独韓共同修士プログラム(TEACH)</p> <p>中央アジア・日本人材育成プロジェクト(日本財団助成)</p> <p>AIMS(Asian International Mobility for Students)プログラム 筑波トランスパシフィックプログラム</p> <p>経済・公共政策プログラム(世界銀行等の協力のもと、開発途上国の若手リーダーを対象とした英語による修士プログラム)</p> <p>地域研究イノベーション学位プログラム</p> <p>筑波大学グローバルリーダーシップ教育プログラム (Tsukuba Global) (つくば・グローバル・プラス)/TG⁺) 地球規模課題(グローバル)の知識、新興国(ローカル)の視点、高い英語力と現地語力を身につける、全学に開かれたリーダーシップ教育プログラム</p> <p>日本・ユーラシア研究プログラム(SPJES) (日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクトの支援を受け設けられた、中央アジア地域のSDGs(持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals)の達成と当該地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成することを目的とした英語による修士プログラム)</p> <p>Japan-Expert(学士)プログラム 地球規模課題学位プログラム(学士) 総合理工学位プログラム(学士) (スーパーグローバル大学創成支援事業による新しい教育プログラム)</p>
<p>場の提供</p> <p>日本人学生と留学生の交流の場: Student Commons, Global Chat Program(G-Chat/Tsuku-chat/Language Exchange(GOTCHAT))など</p> <p>市民と留学生の交流の場 City Chat Caféなど</p>

表3 グローバルリーダー育成のための取り組みなど

全学的な教学マネジメントの実現

■ 全学的な教学マネジメントによる PDCA サイクルの推進

改組再編後の学位プログラムの教育の質を持続的に保証・向上させていくため、教学マネジメント室を設置し、全学的な教学マネジメントを実現します。

教学マネジメント室では、学位プログラムのモニタリング（毎年の自己点検）とプログラムレビュー（機関別認証評価の7年サイクルに合わせて数年おきを実施する総合的な点検・評価）の取組を中核としつつ、学位プログラムの新設又は改組等に伴う質保証の審査、体系的なファカルティ・ディベロップメントの推進及び高等教育に関する調査研究などを行い、内部質保証の確立と高度化を図ります。

図5 モニタリングとプログラムレビューによる内部質保証の確立（イメージ図）

